

東北地方太平洋沿岸の自然風景の特徴

国立公園の景観は「同一の風景形式中我が国の風景を代表するとともに、世界的にも誇りうる傑出した自然の風景であること」とされており、この要件を満たす地域から国立公園の候補地を選定することとしている。

このため、東北地方太平洋沿岸の自然公園を再編成するに当たり、この地域の自然風景の特徴を整理し、風景地としての評価を検討する必要がある。

そこで、自然風景の骨格を形作る地形地質の観点から地域を八戸市蕪島から牡鹿半島までの地域、松島地域、松島を除く仙台湾地域の3つに分け、文献、専門家へのヒアリングを踏まえて、自然風景の特徴を整理した。

1. 八戸市蕪島から牡鹿半島までの地域

いわゆる「三陸海岸」と呼ばれる地域であり、地史としては北上山地が隆起・沈降（沈水）する過程を経て形成された地域。北上山地は中生代・古生代の地質で形成されていて、数億年前という古い地層を持つ地域

見た目としての風景は、宮古以北の海食崖、海成段丘を主体とする風景と、宮古以南のリアス海岸景観に分けられるが、リアス海岸は地質構造（断層）に由来した構造谷が沈水して形成されたものであり、地史から考慮して、宮古以北の海食崖等と形成過程は同様のものであり、形作られた風景としての表現が多様であるといえる

陸中海岸国立公園は、既に国立公園に指定されているとおり、その海食崖景観は我が国を代表する傑出した風景である

三陸海岸南部のリアス海岸景観は、国内で最も規模が大きいものであり、同じく代表的であり、傑出性の高い風景と考えられる

これらのことから、三陸海岸は、「北上山地が太平洋とのかかわりにより形成した海岸景観」を景観区とし、「海食崖景観とリアス海岸景観が我が国を代表する、傑出した景観」であると考えられる

2. 松島地域

松島は仙台湾に突き出すように存在している松島丘陵の東端の部分が沈水して形成されたもの

松島丘陵自体は新生代新第3紀の火山性堆積物と海成堆積物が堆積してできたものであり、数千万年前の地質からなる

風景形式としては内海多島海となるが、内海多島海景観としては、瀬戸内海や天草、英虞湾など既に国立公園として評価されているものが多い

3 . 仙台湾沿岸（松島は除く）の地域

仙台湾沿岸は、旧北上川、七北多川、名取川などの河川の堆積物により形成された沖積平野であり、その地層は新生代の第4紀の数万年前と地質年代では最も新しいもの

砂浜海岸、砂丘が海岸部に見られ、内陸部には平野が広がる景観が特徴であり、風景形式としては砂浜海岸になる

日本の大規模な平野の多くが沖積平野であり、砂浜海岸としてもサロベツ、鳥取砂丘など大規模で自然性の高いものが既に国立公園として評価されているほか、九十九里浜や遠州灘など、同等以上の規模を有する砂浜海岸が国内各地に存在している